

問1 1877年に起こった西南戦争の戦費を調達するため、政府が大量の不換紙幣を発行したことで生じた、急激な物価の上昇を何と呼びますか。また、この経済混乱を収拾し、通貨の価値を安定させるために設立された機関を選びなさい。（2021年 広島公立入試 類似）

1. インフレーションと日本銀行 2. デフレーションと国立銀行 3. インフレーションと横浜正金銀行 4. デフレーションと日本銀行

問2 1900年前後の日本において、綿糸の輸出量が急増し、主要な輸出品となった背景として最も適切な説明を選びなさい。（2018年 群馬県公立入試 類似）

1. 大規模な紡績工場が次々と建設され、機械による大量生産が可能になったため 2. 農村部での副業として、伝統的な手作業による生産体制が強化されたため 3. 政府がすべての紡績工場を買取り、国営化することで生産効率を高めたため 4. 欧米諸国から安価な綿糸が大量に輸入され、それをそのまま再輸出したため

問3 1872年に明治政府によって公布された、日本で最初の近代的学校制度に関する法令について、その基本的な方針を説明したものととして正しいものはどれですか。（2024年 山口公立入試 類似）

1. 身分や性別を問わず、国民が等しく教育を受けることを目指し、全国に小学校を設置しようとした。 2. 天皇への忠誠や家族の絆を教育の柱とし、全国の学校で教育の基本方針とするよう定めた。 3. 戦後の教育の基本原則を定め、日本国民が民主的な社会の形成者となるよう義務教育の枠組みを整備した。 4. 藩の財政を立て直すために、武士だけでなく有力な農民の子弟にも高度な専門知識を教育することを奨励した。

問4 明治時代の貿易統計において、1890年代に綿糸の国内生産量と輸出量が急増していた時期の状況について、正しく述べたものはどれですか。（2017年 滋賀公立入試 類似）

1. 綿糸の輸出量が増える一方で、原料となる綿花の輸入量も増加した。 2. 綿糸の輸出超過と同時に、生糸の輸出が完全に停止した。 3. 綿糸の輸出を増やすため、政府は民間の紡績工場をすべて官営化した。 4. 国内の紡績業が発展したため、イギリスからの綿織物の輸入が完全に途絶えた。

問5 1885年に内閣制度が創設された時期の日本において、政府が推進していた経済や社会の動きとして最も適切な説明はどれですか。（2025年 京都公立入試 類似）

1. 渋沢栄一らが経済界をリードし、官営模範工場の設立などの殖産興業政策が進められた。 2. 吉野作造が民本主義を提唱し、普通選挙の実現を求める護憲運動が展開された。 3. 犬養毅首相が海軍将校らに暗殺される五・一五事件が起こり、政党政治が中断した。 4. 日中戦争の長期化に対応するため、国家総動員法が制定されて経済の統制が強まった。

問6 明治政府が派遣した岩倉使節団には、幼少期の津田梅子を含む数名の女子留学生が同行していました。当時の政府が、多額の費用をかけて女子留学生を欧米へ派遣した背景や、その後の津田梅子の活動目的として最も適切な説明はどれですか。（2026年 奈良公立入試 類似）

1. 欧米の進んだ文明を吸収して日本の近代化を進めるため、次代を担う女性にも高い教養や自立した精神が必要だと考えたから。 2. 不平等条約の改正交渉を有利に進めるため、外国の要人と対等に社交ができる女性通訳を大量に養成する必要があったから。 3. 富国強兵政策の一環として、製糸工場などで働く女性労働者に最新の機械操作を教える指導者を育成しようとしたから。 4. キリスト教の布教を制限する代わりに、女子教育については教会の教育方針を全面的に取り入れるよう政府が決定したから。

問7 1874年、板垣退助や後藤象二郎らが明治政府に対して提出し、自由民権運動のきっかけとなった文書は何ですか。当時の政治が一部の官僚によって独占されている現状を批判し、公選の議員による議会の開設を強く求めたものを、次の中から選びなさい。（2026年 青森公立入試 類似）

1. 民撰議院設立の建白書 2. 五箇条の御誓文 3. 大日本帝国憲法 4. 教育勅語

問8 明治時代、板垣退助らが「民撰議院設立建白書」を提出したことで本格化した、国会の開設や憲法の制定などを求める全国的な政治運動を何といいますか。（2018年 長野県公立入試 類似）

1. 自由民権運動 2. 士族の反乱 3. 新生活運動 4. 大正デモクラシー

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>インフレーションと日本銀行</b>	西南戦争の膨大な戦費を賄うために政府が紙幣を乱発した結果、紙幣の価値が下がり物価が急騰するインフレーションが発生しました。この事態を解決するため、1882年に中央銀行としての役割を持つ日本銀行が設立され、紙幣の発行高を管理することで物価の安定が図られました。
問2	<b>答え 1</b> <b>大規模な紡績工場が次々と建設され、機械による大量生産が可能になったため</b>	明治時代後半から、大阪を中心に大規模な紡績工場が建設され、産業革命が進展しました。それまでの手作業から機械による動力を用いた生産へと移行したことで、綿糸の大量生産が実現しました。その結果、日本は綿糸の輸入国から世界有数の輸出国へと転換し、日本の近代産業を支える重要な部門となりました。
問3	<b>答え 1</b> <b>身分や性別を問わず、国民が等しく教育を受けることを目指し、全国に小学校を設置しようとした。</b>	明治政府は、欧米列強に対抗するための国づくり（富国強兵）には、国民全体の知識水準を引き上げることが不可欠であると考えました。そこで1872年に「学制」を公布し、身分や性別の区別なく、すべての国民が小学校で学ぶことを目指す「国民皆学」の理念を掲げました。選択肢にある天皇への忠誠などを強調したものは1890年の「教育勅語」、戦後の民主化に基づくものは1947年の「教育基本法」の内容です。
問4	<b>答え 1</b> <b>綿糸の輸出量が増える一方で、原料となる綿花の輸入量も増加した。</b>	紡績業の発展により綿糸の国内生産が盛んになると、その原料である綿花の需要が高まり、輸入量が増大しました。政府は1896年に綿花の輸入関税を撤廃して、紡績業の国際競争力を高める支援を行いました。一方で、生糸は依然として日本の最大の輸出商品であり続けており、貿易構造が多角化していく過程にありました。
問5	<b>答え 1</b> <b>渋沢栄一らが経済界をリードし、官営模範工場の設立などの殖産興業政策が進められた。</b>	内閣制度が創設された1880年代は、明治政府が「富国強兵」を目指して近代産業の育成に力を注いでいた時期です。渋沢栄一などの民間実業家も協力し、紡績業や鉄道建設といった殖産興業が活発化していました。他の選択肢は、大正時代から昭和時代にかけての出来事であるため不適切です。
問6	<b>答え 1</b> <b>欧米の進んだ文明を吸収して日本の近代化を進めるため、次代を担う女性にも高い教養や自立した精神が必要だと考えたから。</b>	岩倉使節団の主な目的は、不平等条約の改正に向けた予備交渉と、欧米の先進的な制度・文化の視察でした。政府は日本の近代化を推し進める上で、家庭教育を担う女性の教育も不可欠であると判断し、女子留学生を派遣しました。津田梅子は自身の留学経験をもとに、単なる知識の習得だけでなく、国際的視野を持ち自立して社会に貢献できる女性の育成を目指して教育活動を行いました。
問7	<b>答え 1</b> <b>民撰議院設立の建白書</b>	板垣退助らは、明治六年の政変で下野した後、高知で立志社を結成し、政府に対してこの文書を提出しました。これが国民の政治参加を求める自由民権運動の出発点となりました。選択肢にある「五箇条の御誓文」は明治新政府の発足時に示された基本方針であり、「大日本帝国憲法」は後に民権運動などの高まりを受けて発布されたものです。
問8	<b>答え 1</b> <b>自由民権運動</b>	1874年に板垣退助らが政府に提出した建白書によって、国民の選んだ議員による議会の設置を求める声が高まりました。政府は当初、言論の弾圧などでこれに対抗しましたが、運動の広がりを受けて1881年に「国会開設の勅諭」を出し、10年後の国会開設を約束することとなりました。